



1/5 Hirado City Photo News
防火・防災に対する消防団員としての意識を新たに



平戸文化センターで「令和3年平戸市消防出初式」を開催しました。
今回は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、分列行進や服装点検を省略し、参加者の手指消毒、マスクの着用、座席の距離を空けるなどを行い、実施しました。
式典終了後には、各分団の車両による商店街のパレードと平戸瀬戸に向けて一斉放水が実施され、消防団員としての防火・防災に対する意識を新たにしました。

12/21 Hirado City Photo News
ポイント寄付事業でテント寄贈



しおかこども園で「平戸クラブネットカード」事務局から、市保育会に簡易テント17張りの寄贈式が行われました。
「平戸クラブネットカード」は、会員が買い物で付与されたポイントのうち、10%が寄付として積み立てられ、町づくり、高齢者支援や子育て支援などに活用されます。この日は、平戸商工会議所の早田会頭から市保育会の間瀬会長に市内の保育施設で活用してくださいと寄贈された後、園長からのお礼の言葉や園児によるダンスなどが行われました。

12/20 Hirado City Photo News
日本人にとっての捕鯨を考える



生月町開発総合センターで、古式捕鯨シンポジウム実行委員会主催のシンポジウム「古式捕鯨とは何か～日本人にとって捕鯨とはなんだ！～」が開催され、市内外から約100人が来場しました。
この日登壇した研究者は5人。戦国時代から明治時代にかけて盛んに行われた古式捕鯨について、これまでの研究成果や地域経済を支える重要な産業であったことなどが報告されました。その後のパネルディスカッションでも、それぞれの研究について活発な意見交換が行われました。



3年ぶり3度目の日本一

史上初のオンラインでのリモート開催

今年の第8回全国小・中学校リズムダンスふれあいコンクールは、新型コロナウイルスの影響で東京での全国大会ができないため、事前にダンスの映像を提出して審査することになりました。12月26日に、全国の予選会を勝ち上がった12チームによるリモートの結果発表が行われ、中学生規定曲部門において大島中学校「Team大島22」が、3年ぶり3度目となる文部科学大臣賞を受賞しました。

チームの人数を調整して出場

今大会は、例年とは違い1チームの人数を制限してエントリー。「Team大島22」では、全体のレベルが均等になるよう3チームに分かれて参加。練習では、人数が少ないことで、一人一人の動きをより重点的に審査されることから、個人を表現する動作を意識しながら、自分たちでダンスのふりなども考えました。また、ダンスが苦手な生徒にも、みんなで話し合いながら動きのアドバイスをしたりと和やかな雰囲気練習しました。

「Team大島22」のダンス動画は、大会ホームページでも公開されていますので、ぜひご覧ください。

全国リズムダンスふれあいコンクール [検索](#)

「Team大島22」2年越しの思い

昨年「Team大島22」が惜しくも上位入賞できなかった悔しさもあったので、今回、日本一になることができると嬉しく思います。これも、生徒はもちろん、保護者や地域の皆さんのおかげです。そして、何より昨年悔しい思いをした先輩たちのおかげです。



大島中学校 村井 能子 教諭

今回のチームは、みんな非常に仲が良く、時には下級生が上級生に踊りのアドバイスをしながら練習していました。これは、去年の3年生が「上下関係なくみんなで同じ目標に向かって取り組む」という思いをもって練習していたからです。今年の3年生も先輩たちのその思いを受け継いでみんな一丸となって練習して、日本一になることができたので「Team大島22」の先輩たちには本当に感謝しています。